



令和元年8月15日(木)

台風第10号に関する 大阪管区気象台と近畿地方整備局 の共同会見

この資料は、8月15日11時開催の共同会見時点の資料です。その時点の予想に基づいて作成したものですので、最新の気象情報は、気象台ホームページから確認ください。

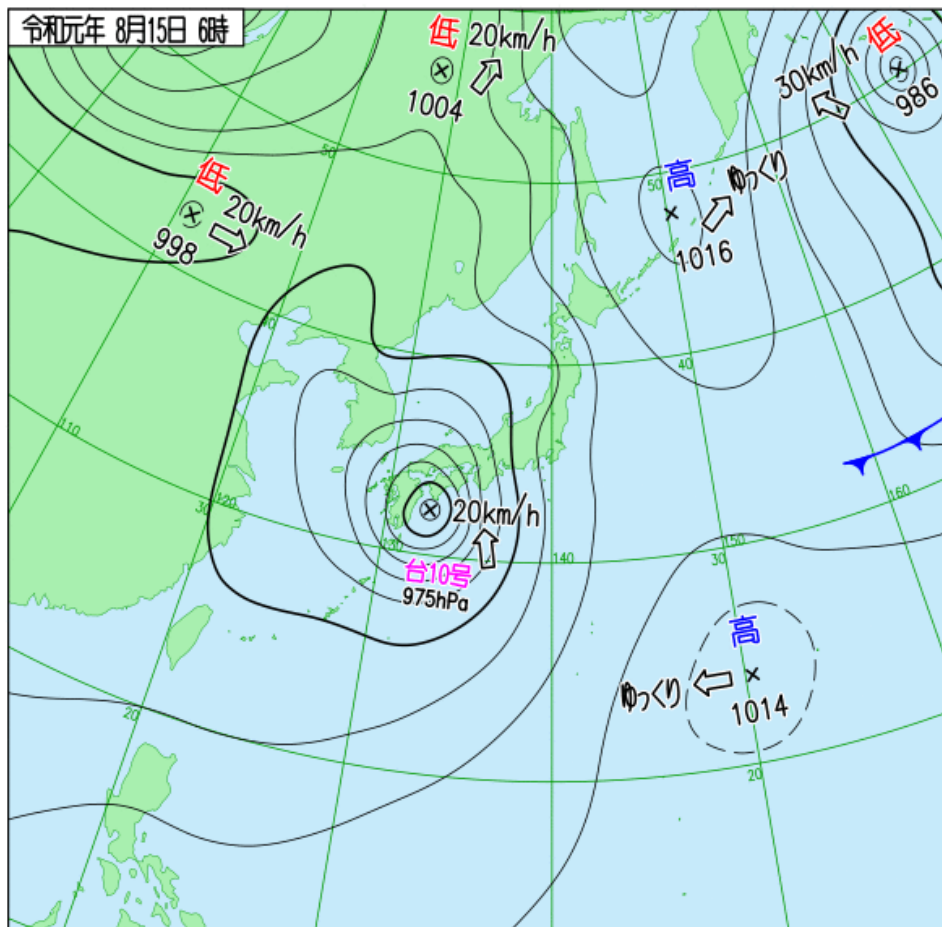
大阪管区気象台
気象防災部予報課

台風第10号の進路と影響のポイント

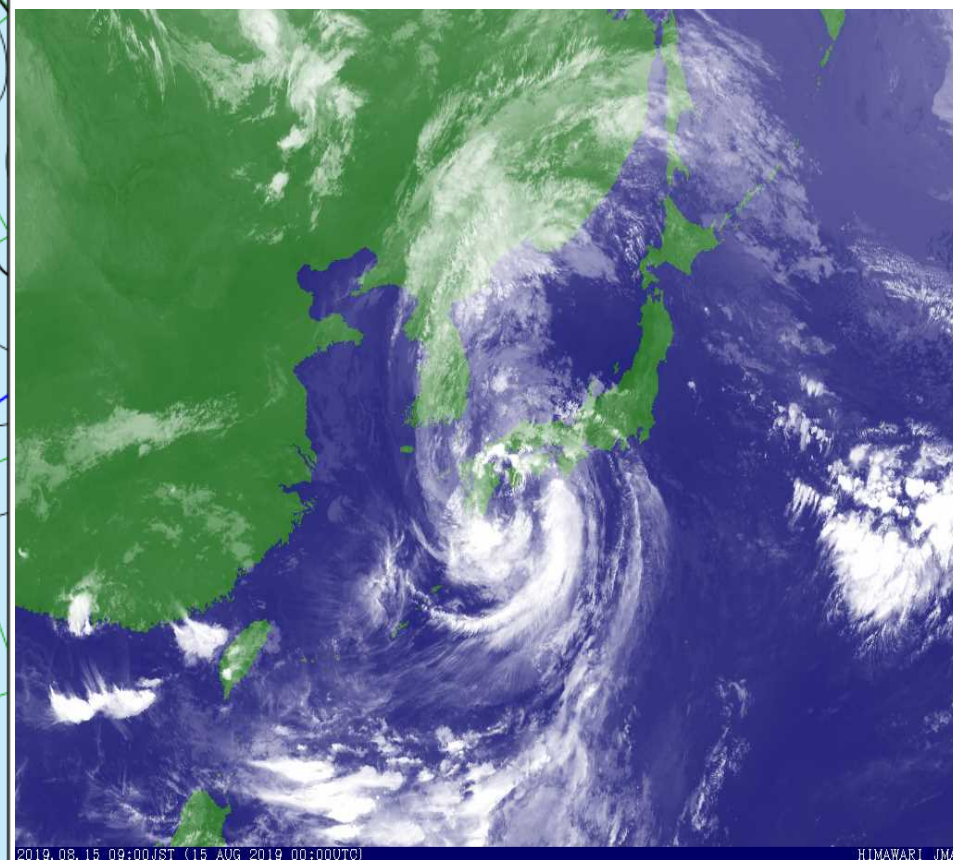
- ①大型の台風第10号は、15日昼過ぎから夜のはじめ頃にかけて近畿地方に最も接近する見込み。
- ②近畿地方では断続的に激しい雨や非常に激しい雨が降り、近畿南部では猛烈な雨の降るおそれ。土砂災害、浸水害、高波に厳重に警戒。河川の増水や氾濫、暴風、高潮に警戒。
- ③近畿地方では、16日にかけて雨が降り、総雨量が非常に多くなる見込み。近畿南部の南東斜面を中心に多い所で1000ミリを超える大雨のおそれ。厳重に警戒。

地上天気図 と 気象衛星画像

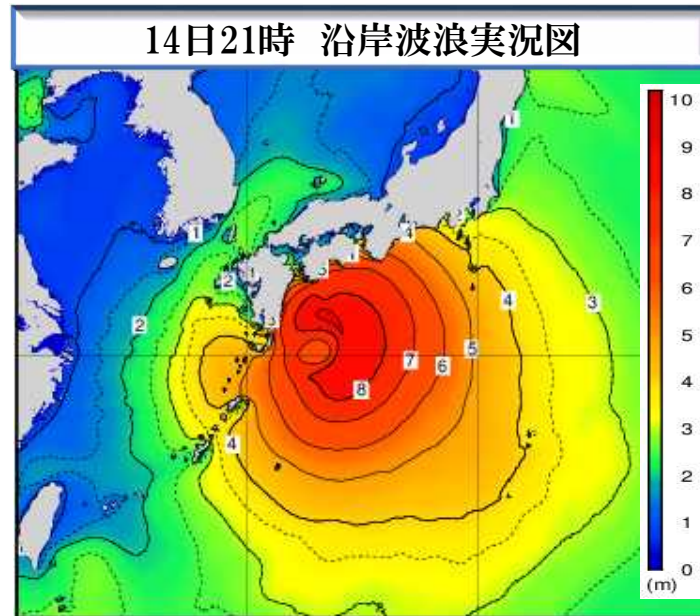
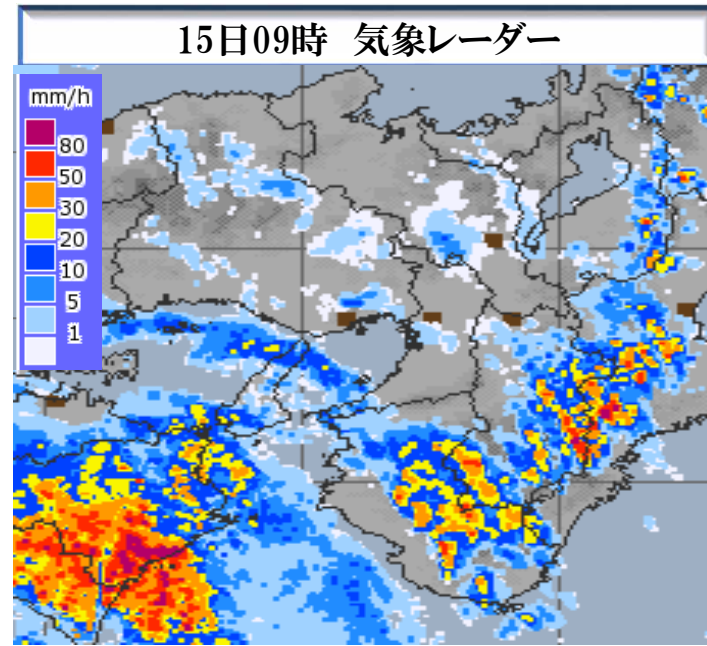
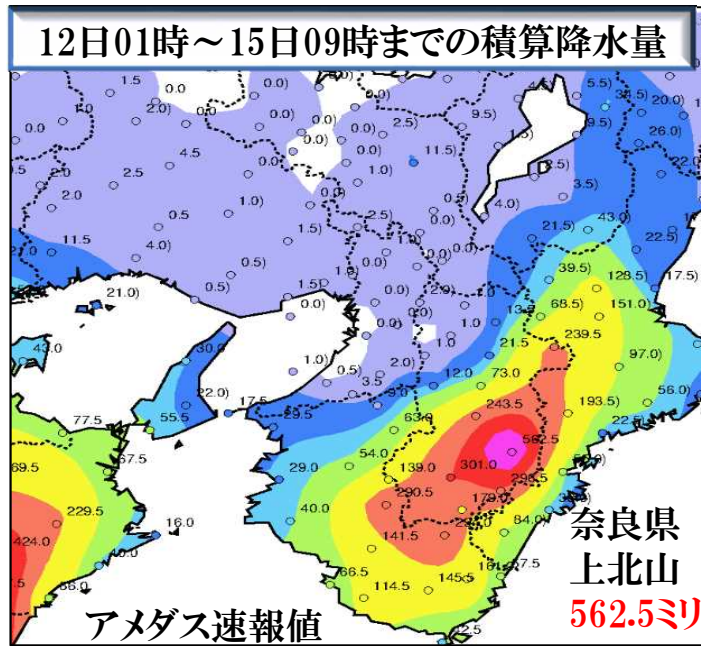
8月15日06時



8月15日09時00分



各種実況

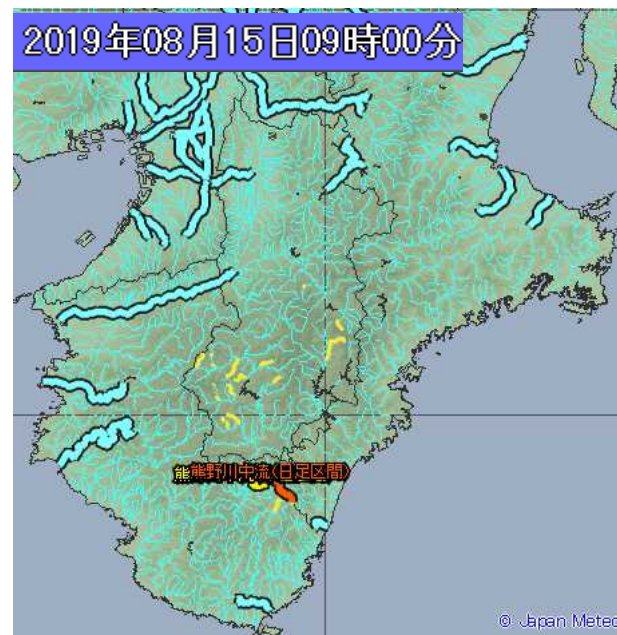
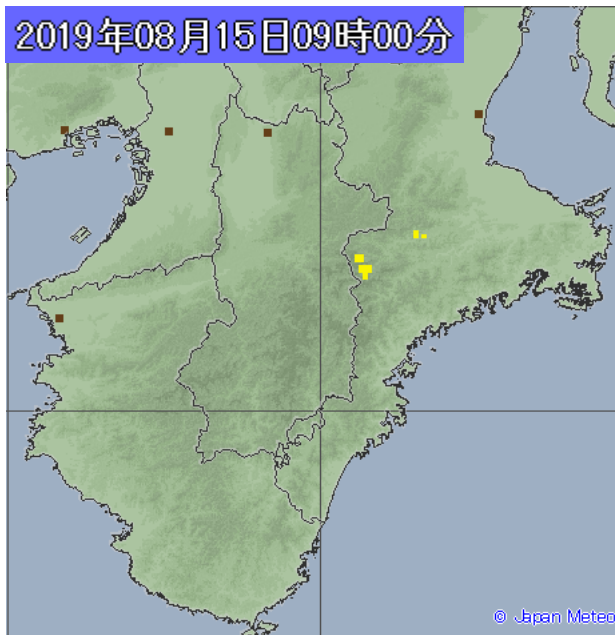
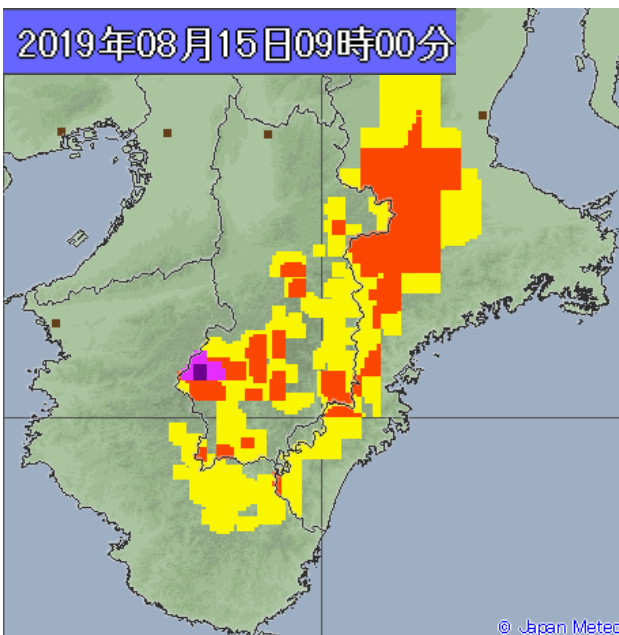


警報発表状況 と 危険度分布 (15日09時現在)

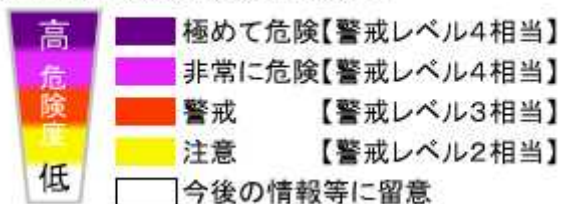
大雨警報(土砂災害)
奈良県、和歌山県
奈良県:土砂災害警戒情報

大雨警報(浸水害)
15日09時時点でなし

洪水警報
奈良県、和歌山県



大雨警報(土砂災害)の危険度分布

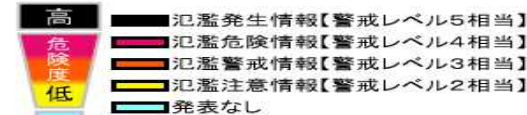


大雨警報(浸水害)の危険度分布

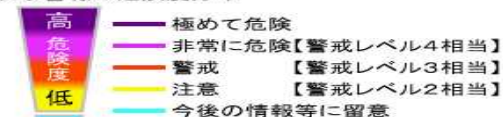


指定河川洪水予報

国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな損害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。



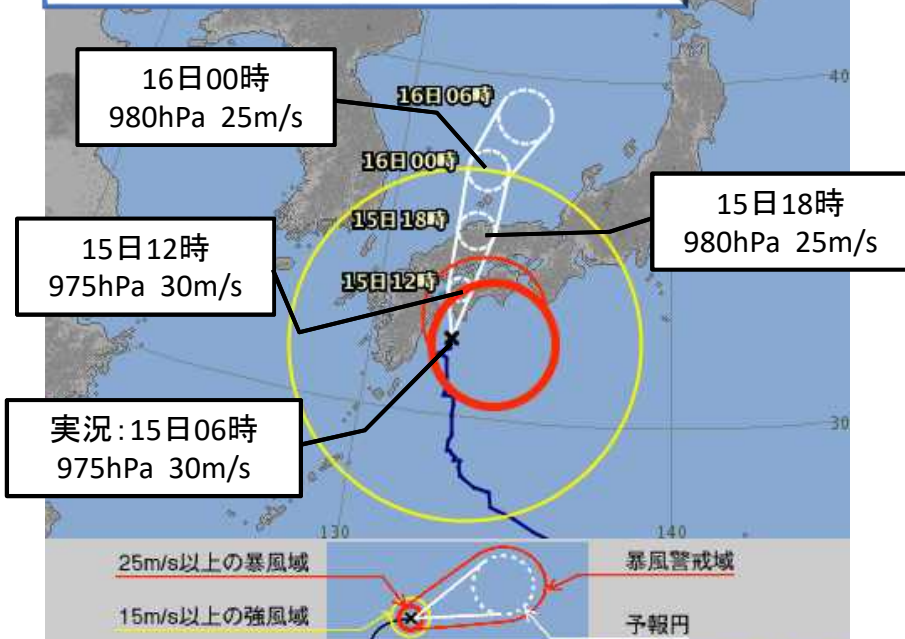
洪水警報の危険度分布



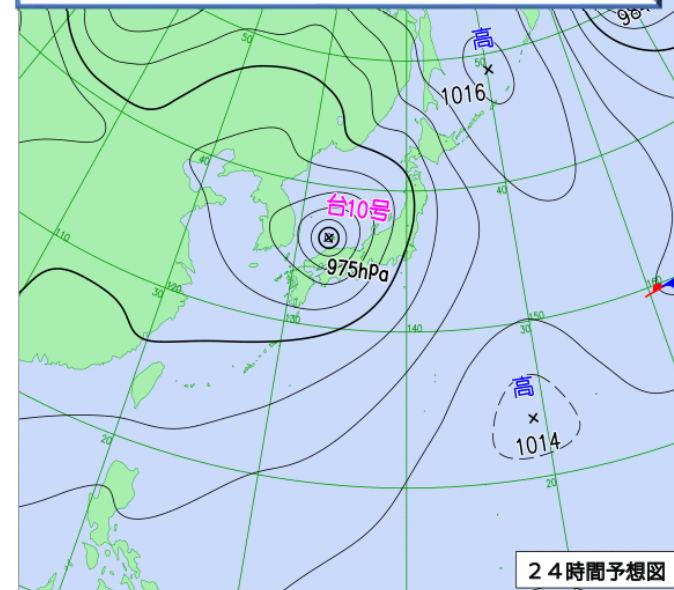
令和元年台風第10号の進路予想

台風進路予想 8月15日06時

4時間先まで

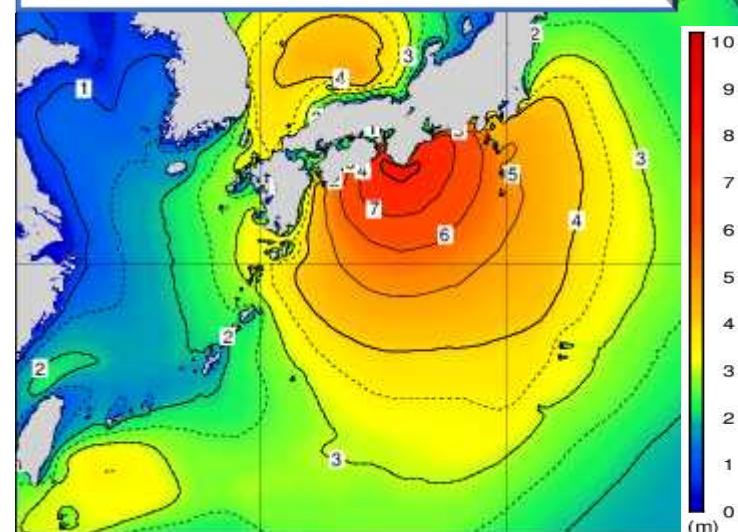


地上予想天気図 8月15日21時



24時間予想図

15日21時 沿岸波浪予想図



<p><15日06時の実況></p> <p>大きさ 大型</p> <p>強さ -</p> <p>存在地域 足摺岬の南南西約70km</p> <p>中心位置 北緯 32度10分(32.2度) 東経 132度35分(132.6度)</p> <p>進行方向、速さ 北 20km/h(11kt)</p> <p>中心気圧 975hPa</p> <p>最大風速 30m/s(60kt)</p> <p>最大瞬間風速 45m/s(85kt)</p> <p>25m/s以上の暴風域 東側 300km(180NM) 西側 60km(30NM)</p> <p>15m/s以上の強風域 東側 600km(325NM) 西側 500km(270NM)</p>		<p><15日18時の予報></p> <p>強さ -</p> <p>存在地域 松江市付近</p> <p>予報円の中心 北緯 35度20分(35.3度) 東経 133度00分(133.0度)</p> <p>進行方向、速さ 北 30km/h(16kt)</p> <p>中心気圧 980hPa</p> <p>最大風速 25m/s(50kt)</p> <p>最大瞬間風速 35m/s(70kt)</p> <p>予報円の半径 60km(30NM)</p>	
<p><15日12時の予報></p> <p>強さ -</p> <p>予報円の中心 北緯 33度35分(33.6度) 東経 132度40分(132.7度)</p> <p>進行方向、速さ 北 25km/h(14kt)</p> <p>中心気圧 975hPa</p> <p>最大風速 30m/s(55kt)</p> <p>最大瞬間風速 40m/s(80kt)</p> <p>予報円の半径 40km(20NM)</p> <p>暴風警戒域 南東側 300km(160NM) 北西側 80km(45NM)</p>		<p><16日00時の予報></p> <p>強さ -</p> <p>予報円の中心 北緯 37度05分(37.1度) 東経 133度10分(133.2度)</p> <p>進行方向、速さ 北 35km/h(18kt)</p> <p>中心気圧 980hPa</p> <p>最大風速 25m/s(50kt)</p> <p>最大瞬間風速 35m/s(70kt)</p> <p>予報円の半径 70km(40NM)</p>	

近畿地方への影響 (予報円の中心付近を通った場合:15日09時現在)

- 台風は、15日昼過ぎから夜のはじめ頃にかけて、近畿地方に最も接近する見込み。
- 断続的に、激しい雨や非常に激しい雨が降り、近畿南部では猛烈な雨の降るおそれ。土砂災害、浸水害、高波に嚴重に警戒。河川の増水や氾濫、暴風、高潮に警戒。
- 近畿南部の南東斜面を中心に多い所で総雨量が1000ミリを超える大雨のおそれ。

	15日						16日							
	6-9時 朝	9-12時 昼前	12-15時 昼過ぎ	15-18時 夕方	18-21時 夜の はじめ頃	21-24時 夜遅く	0-3時 未明	3-6時 明け方	6-9時 朝	9-12時 昼前	12-15時 昼過ぎ	15-18時 夕方	18-21時 夜の はじめ頃	21-24時 夜遅く
台風最接近														
大雨(浸水)	近畿北部													
	近畿中部													
	近畿南部													
大雨(土砂)	近畿北部													
	近畿中部													
	近畿南部													
大雨・洪水	近畿北部													
	近畿中部													
	近畿南部													
暴風	北部陸上													
	北部海上													
	中部陸上													
	中部海上													
	南部陸上													
	南部海上													
波浪	近畿北部													
	近畿中部													
	近畿南部													
高潮	近畿北部													
	近畿中部													
	近畿南部													
雷	近畿北部													
	近畿中部													
	近畿南部													

最接近
 警報級
 注意報級

・1時間降水量	15日	16日
近畿北部	60ミリ	60ミリ
近畿中部	60ミリ	60ミリ
近畿南部	80ミリ	80ミリ

・24時間降水量(15日6時～16日6時)	近畿北部	近畿中部	近畿南部
	300ミリ	350ミリ	500ミリ

・24時間降水量(16日6時～17日6時)	近畿北部	近畿中部	近畿南部
	およそ50ミリ	およそ50ミリ	およそ50ミリ

・風	15日	16日
近畿北部	陸上 20メートル	15メートル
	海上 25メートル	20メートル
近畿中部	陸上 20メートル	20メートル
	海上 25メートル	25メートル
近畿南部	陸上 20メートル	15メートル
	海上 25メートル	20メートル
・波	15日	16日
近畿北部	4メートル	4メートル
近畿中部	7メートル	6メートル
近畿南部	9メートル	8メートル

台風の接近や大雨に備えて

- ◆ 大雨による土砂災害・洪水・低い土地の浸水をはじめ、暴風、高波、高潮など、自分のいる場所ではどのような災害が起こりやすいのかを予め確認し、台風が近づき暴風で避難が難しくなる前に、**早め早めの安全確保**をお願いします。
- ◆ 警報・注意報が発表されている市町村では、危険度分布で危険が迫っている地域を確認し、**安全確保**をお願いします。
- ◆ 海岸や増水した河川・用水路なども含め、**危険な場所には絶対に近づかない**ようお願いします。
- ◆ 各地気象台が発表する**警報・注意報など気象情報**に留意するとともに、**市町村の避難勧告等**に注意してください。
- ◆ お盆期間であり遠出している方などは、交通機関への影響や、滞在先のハザードマップや自治体からの情報などにも留意してください。
- ◆ 今後の台風の進み方によっては状況が変わってきますので、常に最新の情報を利用してください。

今後の予想を含めた最新の情報は、以下からご利用ください。

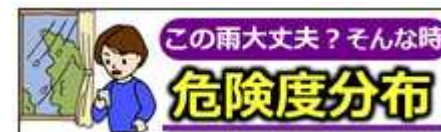
参考資料

○気象警報・注意報(大雨、洪水、暴風(雪)、波浪、高潮、大雪などによる災害への警戒・注意を呼びかける)

<https://www.jma.go.jp/jp/warn/>

○危険度分布(どこで土砂災害、浸水害、洪水害の危険度が高まると予測されているかを地図上で表示)

土砂災害 <https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>
浸水害 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>
洪水警報 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>



気象庁HPのバナーをご利用ください。

○各地の気象情報(気象概況や大雨の見通し)

<https://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/>

○台風情報(台風の位置・強さ・速度などの解析・予報、大雨や暴風の見通し)

<https://www.jma.go.jp/jp/typh/>
https://www.jma.go.jp/jp/typh/typh_text.html

○指定河川洪水予報(国や都道府県の管理する主な河川の氾濫の危険度を予測)

<https://www.jma.go.jp/jp/flood/>

○土砂災害警戒情報(命に危険が及ぶ土砂災害の発生が切迫したときに厳重な警戒を呼びかける)

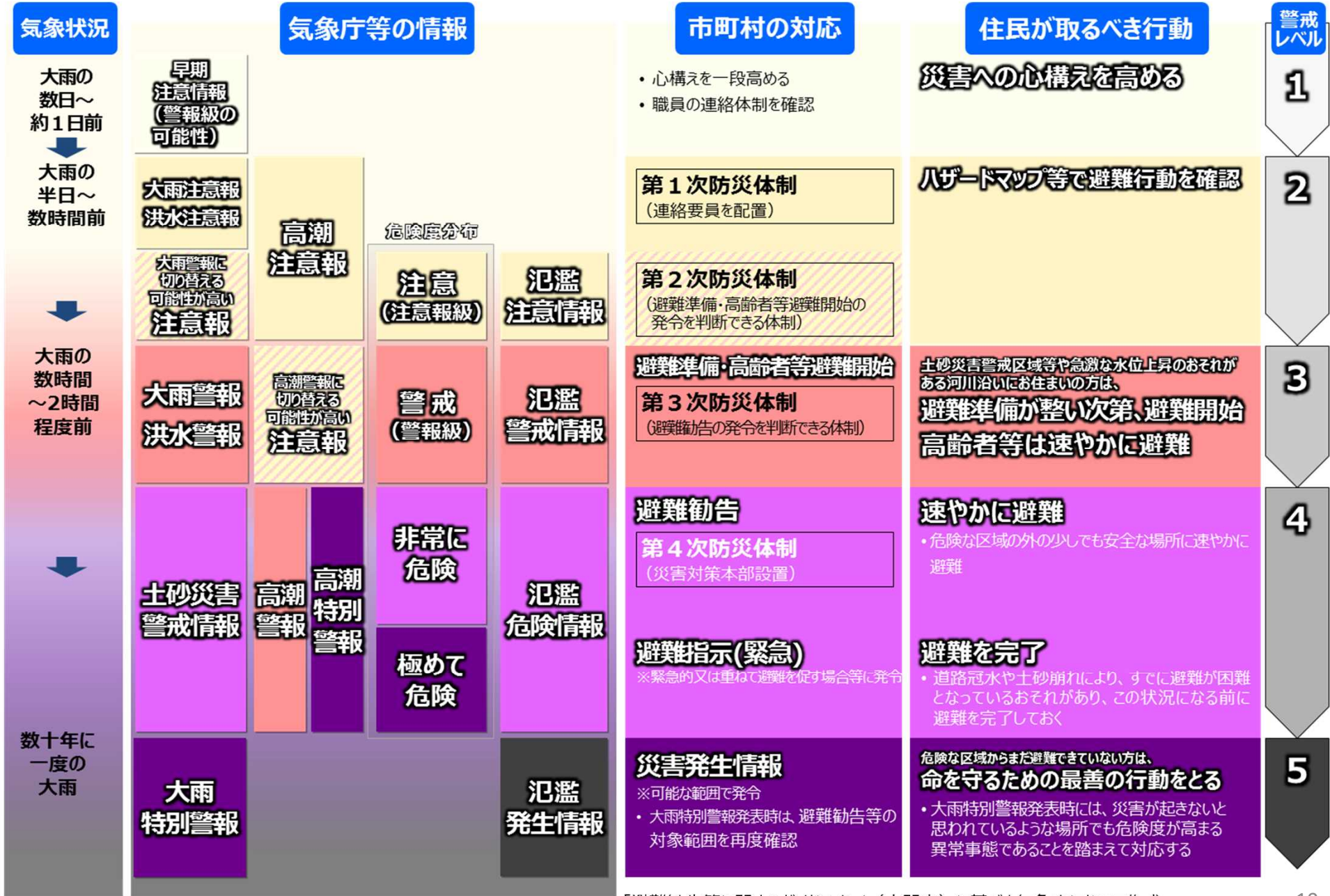
<https://www.jma.go.jp/jp/dosha/>

○最新の気象データ(雨雲の動き、今後の雨、雨や風の観測データ)

<https://www.jma.go.jp/jp/highresorad/>
<https://www.jma.go.jp/jp/kaikotan/>
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/rank_daily/prerct00.html#pre24h_rct
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/rank_daily/data00.html#mxwsp

段階的に発表される防災気象情報の活用例

参考資料



「避難勧告等に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

「危険度分布」を活用して早めの避難を

参考資料

大雨警報(土砂災害)の
危険度分布
(土砂災害警戒判定メッシュ情報)



大雨警報(浸水害)の
危険度分布



洪水警報の
危険度分布



濃い紫は災害がすでに発生しているにもかかわらずおかしくない

「危険度分布」の「濃い紫」が出現してからでは、重大な災害がすでに発生している可能性が高い極めて危険な状況となることから、できる限り早めの避難を心がけ、遅くとも薄い紫が出現した段階で、（洪水害については河川水位などの現況も確認した上で）速やかに避難開始の判断をすることが重要です。

自分のいる場所の「危険度分布」を確認しましょう。

参考
資料



スマートフォン等の位置情報機能を活用し、自分のいる場所の「危険度分布」を確認しましょう。

PC等で「お気に入り」に登録して活用できる、[都道府県別の危険度分布等を簡単に表示できるURL](#)も用意しています。

<例> (大阪府) <https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/index.html#area=331>



風の強さ

参考資料

平均風速 (m/s)	おおよその 時速	予報用語	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	おおよその 瞬間風速 (m/s)
10以上 15未満	~50km	やや強い 風	一般道路 の自動車	風に向って歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
15以上 20未満	~70km	強い風		風に向って歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。看板やタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	
20以上 25未満	~90km	非常に強い風	高速道路 の自動車	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	通常ので速度で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	40
25以上 30未満	~110km							
30以上 35未満	~125km		特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	50
35以上 40未満	~140km	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。						
40以上	140km~	住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。					60	

雨の強さ

参考資料

1時間雨量 (mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて	災害発生状況
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる		この程度の雨でも長く続く時は注意が必要
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り					ワイパーを速くしても見づらい
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしていてもぬれる		道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 都市では下水管から雨水があふれる
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる					雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

台風の大きさと強さ

気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、下表のように風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。

さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

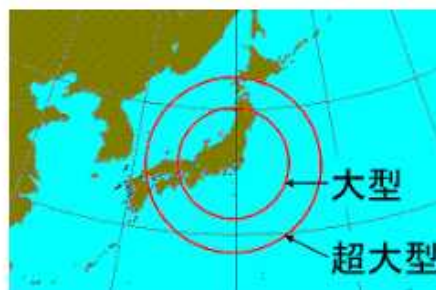
強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s(64ノット)以上～44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上～54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較すると以下のようになります。



台風に関する情報の中では台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で強い台風」のように呼びます。ただし、強風域の半径が500km未満の場合には大きさを表現せず、最大風速が33m/s未満の場合には強さを表現しません。例えば「強い台風」と発表している場合、その台風は、強風域の半径が500km未満で、中心付近の最大風速は33～43m/sで暴風域を伴っていることを表します。

なお、台風情報では暴風域を円形で示します。この円内は暴風がいつ吹いてもおかしくない範囲です。

高潮の要因

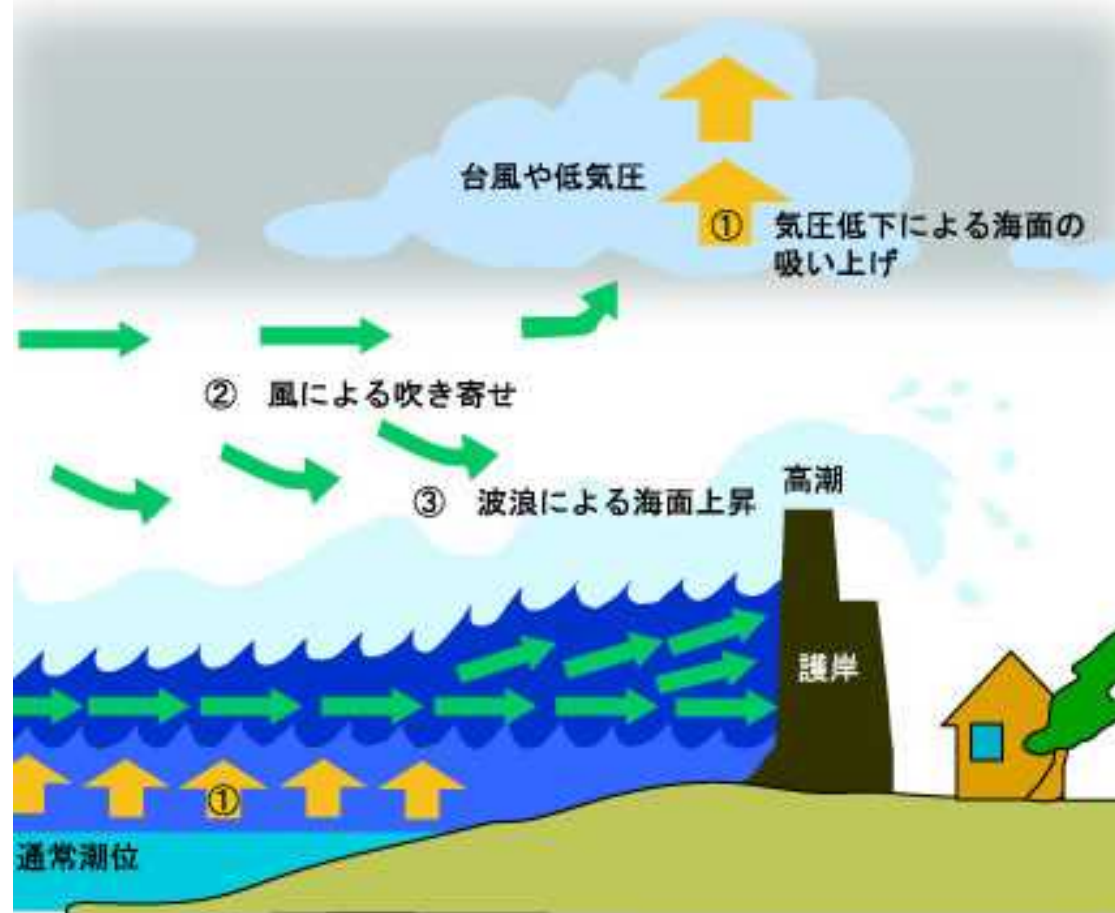
参考資料

台風により、

- ①気圧低下により海面の上昇
- ②風による吹き寄せ
- ③波浪による海面の上昇

の相乗効果により高潮の可能性が高くなります。

特に台風の進行方向の右側では風も強くなり、海面の上昇が起きやすく、特にV字型の湾では奥に行くほど海面上昇が助長されます。



防災気象情報に用いる 時間細分の用語

天気予報では、1日を3時間ごとに区切って、表現しています。

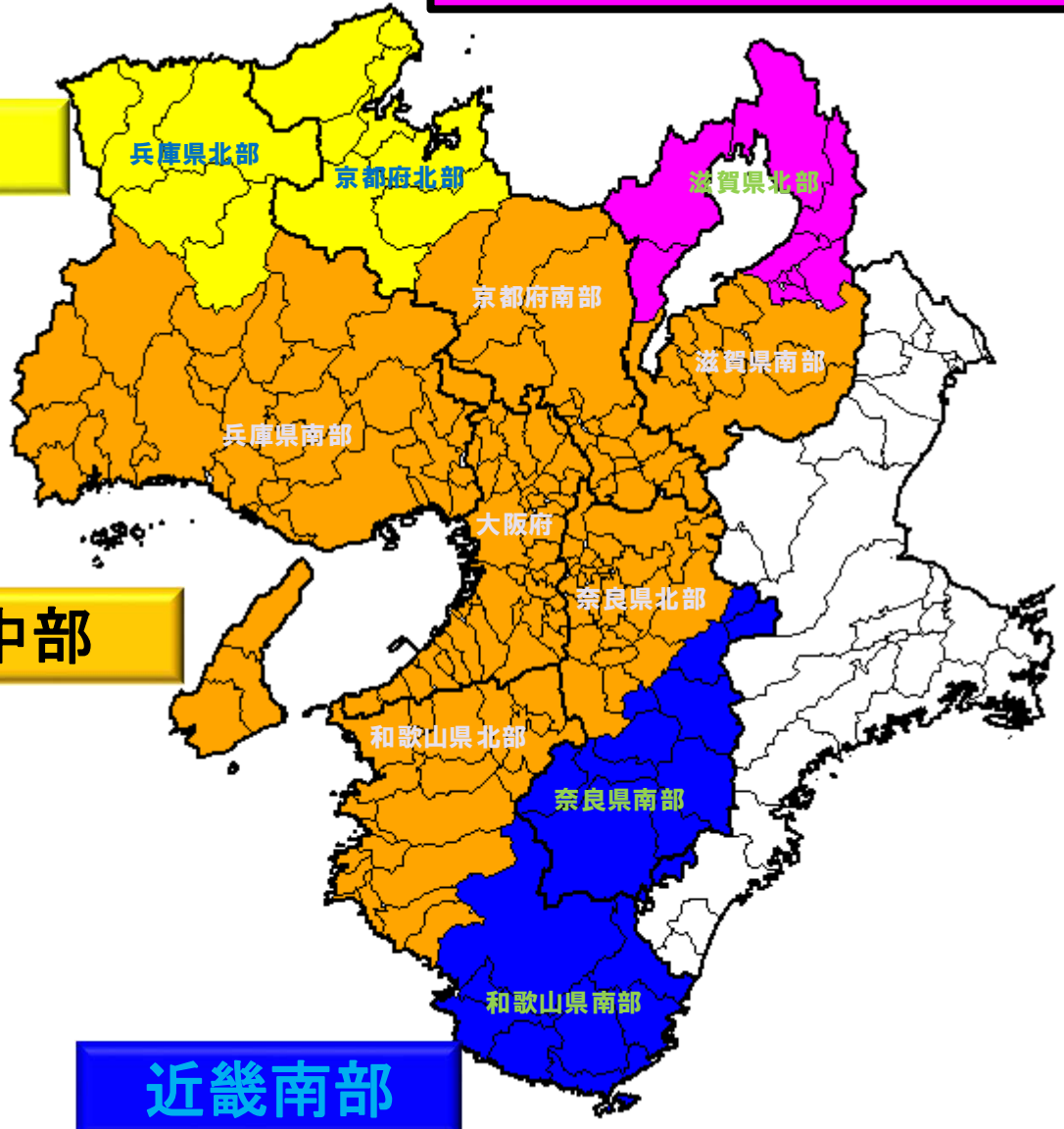
時間帯	一日の時間細分		
00:00～03:00	未明	午前中	
03:00～06:00	明け方		
06:00～09:00	朝		
09:00～12:00	昼前	午後	日中
12:00～15:00	昼過ぎ		
15:00～18:00	夕方		
18:00～21:00	夜のはじめ頃	夜	
21:00～24:00	夜遅く		

近畿地方の北部・中部・南部

参考資料

滋賀県北部は4～9月は近畿地方中部
10～3月は近畿地方北部

近畿北部



近畿中部

近畿南部